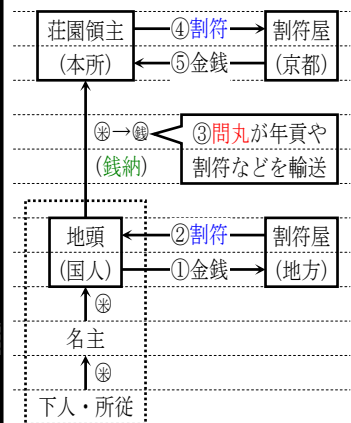


	鎌倉時代	室町時代
栽培	二毛作 (米→麦 [畿内・西日本に普及]) → 同じ田畑で連作するため肥料を使用	二毛作 (米→麦 [東日本(全国的)に普及]) 三毛作 (米→麦→そば [畿内一部に普及]) in 『老松堂日本行録』 (宋希環 (朝鮮使節))
肥料	刈敷 (草を刈って田に敷き込み腐敗させる) 草木灰 (草木を燃いて灰にする) → 入会地 (山林などの共同利用地) で採取	下肥 (人糞尿) も加わる 刈敷や草木灰とともに用いられた
品種改良	大唐米 (中国から輸入された多収穫米) 赤米・唐法師 と呼ばれた	早稲・中稲・晩稲 の普及 ★麦などの後作・災害対策として収穫時期をずらす
揚水機	→ 水路 から田んぼに水を引き揚げる	龍骨車 (中国から伝来した揚水機) 壊れやすい 水車 (川の流れを利用した揚水機)
耕作	牛馬耕 (水田耕作で牛・馬に犁を引かせる) in 『松崎天神縁起絵巻』 鉄製農具の普及 (鋤物師が普及に貢献)	
手工業品の生産	鋳物師 (農具・鍋などの鋳物を作る職人) 鍛冶師 (武器・刃物などの打ち物を作る職人)	鋳物師 (農具・鍋などの鋳物を作る職人) 鍛冶師 (武器・刃物などの打ち物を作る職人) 番匠 (大工→2人がかりで大板材を挽く大鋸を使用) 鎧師 (鎧を作る職人)
商品作物の栽培	苧胡麻 (灯油の原料) 藍 (染料の原料) 楮 (和紙の原料) 桑 (葉は蚕の食用) 苧 (綿・晒の原料)	酒造業 = 摂津・河内・大和 製陶業 = 美濃・尾張・ 信楽焼 (近江) 製紙業 = 杉原紙 (播磨)・ 美濃紙 (美濃) → 絹織物 = 加賀・丹後・西陣織 (山城) → 麻織物 = 越後縮 (越後) 綿織物 = 木綿 (朝鮮から輸入→三河国で栽培)
	鎌倉時代	室町時代
定期市	三斎市 (月に3度開催された定期市) ex. 備前国(岡山県)福岡市・信濃国(長野県)市 in 『一遍上人絵伝』 (円伊)	六斎市 (月に6度開催された定期市) 応仁の(1467)乱前後に一般化
商売	見世棚 (常設の小売店) 行商人の出現	見世棚 (店棚) (常設の小売店が一般化) 連雀商人 (商品を連雀で背負った行商人) 振売 (商品を天秤棒にさげた行商人) 桂女 (鮎・朝鮮鮎を売り歩く女性の行商人) 大原女 (炭・薪を売り歩く女性の行商人)
貨幣	宋銭 (日宋貿易で輸入した銅銭) ★鎌倉後期から年貢などの代金納(銭納)始まる ↓ 問丸 (問) (年貢や商品の保管・輸送)	明銭 (日明貿易で輸入した銅銭) ex. 洪武通宝・永楽通宝 (最も流通)・宣徳通宝 → 貨幣の需要増大により粗悪な私鑄銭の流通
運送業者	[為替] 遠隔地間の金銭輸送を割符という 手形・小切手で代用する方法	[運送業者 (問屋の統制下)] 陸上 = 馬借 (荷を馬の背に乗せる) 車借 (荷を牛馬のひく車に乗せる) 海上 = 廻船 (港を廻って商品を輸送する)
金融業者	借上 (鎌倉期の高利貸)	土倉 (高利貸)・ 酒屋 (土倉を兼ねる酒造業者) ★頼母子・無尽 (農村で相互に融資しあう金融)
同業組合	(平安末期に生まれ、鎌倉時代に確立) ★ 供御人 (天皇家に貢納・奉仕する職能民) 神人 (神社に雑役を奉仕する下級神職) 荘園公領制の確立以降、京都の商工業が発達し、 天皇家や寺社から販売の独占・課税の免除などを認められた座を形成	→ 座 (商工業者の同業組合→室町時代に大規模化) → 本所 (寺社・貴族) による保護 ★ 座衆 は本所に 座役 (納付税) を納める代わりに 問銭の免除や仕入れ・販売の独占の特権を獲得 ex. 大山崎油座 = 石清水八幡宮 (本所) 祇園社綿座 = 祇園社 (本所) 北野神社酒麴座 = 北野神社 (本所)

図解NOTE① [諸産業]

- ① 農業生産力の向上 (集約化・多角化)
ex. 二毛作・三毛作・肥料の使用
- ② 商品作物 (原料作物) の栽培・手工業品の生産など諸産業の発達
→ 手工業を専門にする職人の増加
- ③ 商品経済の発達
ex. 見世棚・定期市・座の発達
- ④ 中国銭 (宋銭・明銭) の流入
- ⑤ 貨幣経済の浸透
ex. 金融業者・代金納の開始
- ⑥ 遠隔地取引の活発化
ex. 行商人・運送業者・為替の使用

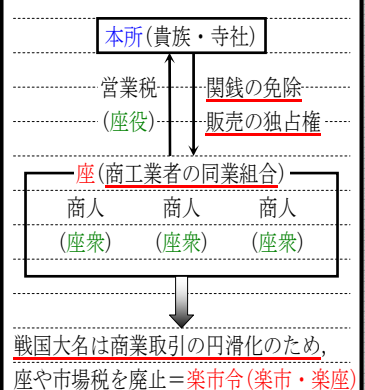
図解NOTE② [為替]



図解NOTE③ [撰銭令]

- ① 輸入銭による貨幣経済の浸透
- ② 貨幣の需要増大により貨幣不足
→ 国内で粗悪な私鑄銭が製造される
- ③ 取引の際、私鑄銭のような悪銭での受取りを拒否する行為 (撰銭) が多発
- ④ 幕府や戦国大名が撰銭令を發布
 - (1) 極端な悪銭の使用を禁止
 - (2) 一部の悪銭の使用を認める
 - (3) 良銭と悪銭の交換比率を定める

図解NOTE④ [座]



[B] 惣村の形成(室町時代)

惣村の形成

惣村(惣) (荘園や公領内部に生まれた畿内の農民達が地縁的に結びついた自治的な村)

★惣・惣郷 (荘園・公領内の複数の惣村が広範囲に結びついた大きな共同組織)

①惣百姓……………惣村を構成する村民一同

②おとな(乙名・長)・沙汰人……………惣村の指導者(主に名主層のもの)

★加地子(名主が作人・下作人から徴収する小作料)を徴収して地主化

→地侍(大名と主従関係を結び、侍身分を獲得した有力農民)となる者が多い

③寄合……………有力名主を中心とした自治的協議機関

名主層が中心で下人・所従などは参加できない

④惣掟(村掟・地下掟)……………惣村内で守るべき規約

★入会地(山林などの共同利用地)・番水制(用水の管理・配分)について定める

⑤自検断(地下検断)……………村民が警察権を行使(違反者へ制裁)

⑥地下請(百姓請・村請)……………惣村でまとめて年貢納入を請け負う

[一揆の形成]

①宮座(神社の氏子組織・農民の祭祀集団)を中心に神社に集まる

おとな・若者組などリーダー層で構成される祭祀を行う組織

[一味神水(一味同心を図るために用いられた作法)]

神仏に誓約した起請文に署名し、それを焼いて水に混ぜ、全員で回し飲む

②一揆(一味同心という連帯意識を持った人々の集団)の結成

→荘家の一揆(荘園・公領を単位とする荘園領主に対する一揆)

(1)愁訴(年貢減免などを百姓申状にして荘園領主に提出)

(2)強訴(荘園領主に年貢減免などを要求し集団で押しかける)

(3)逃散(一時的に集団で土地から退去し、山林などに逃げ込む)

★荘園・公領の枠(領主の違い)を越えて周辺の惣村が広く結合

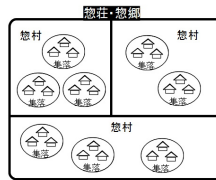
③土一揆(惣村を基盤に酒屋・土倉など高利貸業者を土民(一般庶民)が襲撃)

質物や貸借証文を奪い、実力で債務を破棄・売却地を取り戻す(私徳政)

→のち、債権・債務破棄のため、幕府に徳政令の発布を求める(徳政一揆)

★背景=農村への貨幣経済の浸透(土倉・酒屋から借金・土地の質入れ)

図解NOTE [惣村]



支配単位である荘園・郷の内部には複数の惣村が存在し、さらに一つの惣村は複数の集落によって構成されていた

①農業生産力の向上(有力農民・小農民の成長)

②戦乱の多発に対する自衛(南北朝の動乱など)

③荘園制の崩壊が進展(地頭・守護の荘園侵略などが背景)

→荘園領主(貴族・寺社など)の支配が無効化

④農民が地縁的に結びついた自治的な村(惣村)

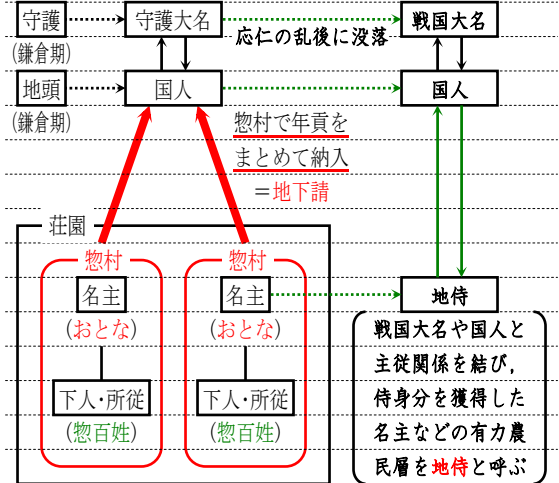
→農民は自治を行うために以下のものを定める

(1)村のリーダー……………おとな・沙汰人

(2)村人の会議……………寄合

(3)村のルール……………惣掟(村掟・地下掟)

(4)違反者へは制裁……………自検断(地下検断)



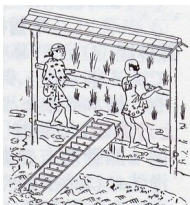
[牛耕(犁を引く牛) in 『松崎天神縁起絵巻』]



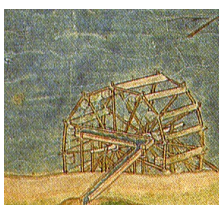
[鍛冶師・番匠・鋳師 in 『職人尽絵』]



[見世棚(店棚)]



[龍舟車]



[水車]



[備前国福岡市 in 『一遍上人絵伝』]



[連雀商人]



[振売]



[大原女]



[桂女]



[永楽通宝]



[私鑄銭①]



[私鑄銭②]



[馬借]



[借上]

[A] 中世の都市 (P34 対応箇所)

港 町 陸海交通の要地・貿易や商業地に発達 応仁の乱で衰退	敦賀 (越前) = 古代に松原客院が置かれていた (P15 へ) 大湊 (伊勢) = 伊勢神宮の外港として栄える 桑名 (伊勢) = 伊勢湾に位置する水陸交通の要地 淀 (京都) = 西国から送られる京都の外港として栄える 兵庫 (摂津) = 日宋貿易の拠点となった大輪田泊が改称 ex. 兵庫北関入船納帳 (1445 年の一年間に 2700 隻以上が入港) 坊津 (薩摩) = 対明・対琉球貿易の拠点として栄える 草戸千軒町 (備後) = 江戸時代に芦田川の洪水で水没する
自由(自治)都市 商人たちの自治によって運営された町	堺 (和泉) = 会合衆 (36 人の豪商) 博多 (筑前) = 年行司 (12 人の豪商) 京都 (山城) = 町 衆 (富裕な商工業者 → 月行事 を中心に運営) 応仁の乱後に 祇園祭 を再興 (日蓮宗信者が多く、法華一揆 の主体) ★その他の自由都市 = 大湊 (伊勢)・桑名 (伊勢)・平野 (摂津)
寺内町 浄土真宗・日蓮宗の寺院や道場に発達	吉崎 (道場) (越前) → 加賀 の一向一揆に影響を与える 山科本願寺 (山城) → 法華一揆 に焼き打ちされる 石山本願寺 (摂津) ・ 富田林 (河内) ・ 今井 (大和)
門前町 浄土真宗以外の一般寺社の門前に発達	延暦寺 = 坂本 (近江) → 天文法華の乱(1536) で近江の 善光寺 = 長野 (信濃) 六角氏 と 法華一揆 を焼き打ち 伊勢神宮 = 宇治 ・ 山田 (伊勢)

図解NOTE [中世の都市]

